

山根洋右学長 特・別・寄・稿



2009年5月16日のしらさぎ会
総会で講演中の山根学長

高知女子大学の あらたな挑戦と決意

同窓会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃、物心ともに本学を支援していただき学生、教職員一同深く感謝致しております。

『会報しらさぎ』の誌面をお借りし、ご挨拶とともに高知女子大学改革に関する現況をご報告させていただきます。

①池キャンパスに、看護学部、社会福祉学

部、健康栄養学部が結集し、隣接する医療センターと連携し、「健康・医療・看護・福祉」の高度職業人材育成拠点を目指します。

また、健康長寿の調査研究や関連領域の社会人生涯研修のための健康長寿センターを設置します。「医食同源」「地産地消」「心土不二」の言葉通り、産官学共同の健康食品産業開発や県民の生活習慣病予防にも貢献します。

②関係者のご理解のもとに、男女共同参画社会の発展を視野に、平成23年4月から男女共学に踏み切ることに決定しました。

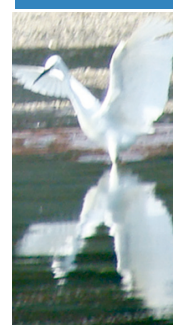
また、永国寺キャンパスには、社会科学系の新学部構想を検討中であります。皆様の変わらぬご支援ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

紫陽花の藍をつくしてしりけり

安住 敦

全報

Kaiho Shirasagi



第43号

主な内容

山根洋右学長・特別寄稿 1頁 レーダー拡大版 12頁
特集 ● 記念誌から編集後記が溢れたんです…。2～5頁
高知女子大学の姿が大きく変わるようですが、宅見美佐子 5頁
総会の前の支部長会のドキュメント 6頁 男女共学化 7頁
しらさぎ会・各支部だより 8、9頁 21年度総会報告 10、11頁

●しらさぎ会総会は
5月の第3土曜。従って今回は
2010年5月15日

出版記念会のご案内

日時 2009年8月23日(日曜日)
11時30分～14時(受付11時)
場所 ホテル日航旭ロイヤル
3階ゴールデンパシフィックの間
高知市九反田 ☎(088)885-5155
会費 8,000円(同封の振込用紙でお申込下さい)

高知女子大学 開学60周年
しらさぎ会記念誌

絆と証

目次から二部紹介します。

第一章 しらさぎ会略史

同窓会誕生以来現在

第二章【1】女子大の担って

きた課題から

【2】活動を通し、自分と向き合う座談会

第三章 わたしと高知女子大

会員の寄稿から【1】

第四章 原稿用紙一枚の青春

会員の寄稿から【2】

第五章 わたしと同窓会活動

会長および支部長の経験者

からの寄稿【3】

第六章 学部の事始め 高知

女子大学史のひとつから

第七章 いまここに在る証

関わった「カタチ」から

第八章 会報「しらさぎ」で

振り返るしらさぎ春秋

第九章 同窓会の発足から辿るしらさぎ年表

同窓生からの寄稿文98篇など、自由のびのび、かなり忌憚のない部分が記念に遺せっていると編集委員会で話し合っています。

記念誌の編集作業が終わりました。

が、正直なことをいえば
編集後記が入りきらず記念誌から溢れたんです…。
そこで、編集後記座談会を企画した…わけです。

編集後記に代えて

とはいえ、「編集後記が入りきらないなんて!」と、お叱りを頂戴するかも知れませんが、「いったいどんな手の込んだ内容になっているか現物を見てから叱ってください!」と、反発したくなるのも事実です。つまり、足かけ3年が瞬く間に過ぎてしまったような委員会でした。そこで、その委員会の一端を同窓生に聞いていただきたいと思います…。

委員さんには「編集後記のため」と称して、わざわざお集りいただきました。なお、池川元学長にも、「特別顧問」として参画いただいた関係上ご出席いただきました。

文責は実務担当で末席を汚した坂本が持ち、敬称は誌面節約のため略しました。

辛口の反省

まず最初は、次のコメント

で、60年記念誌の成功も失敗も、だいたいの流れを感じていただけるのではないだろうか。

藤田●同窓会のサイドで60年を通覧することは、その強い思い入れ故に、ときどき見落とす部分を残すことになるナと、痛感しました。どれだけ広く同窓会員の当時と今を汲み上げ得たかも疑問が残ります。

しかし、編集委員が2年有余の時間をかけて、可能な限りの努力をして編んだのがこの記念誌です。

いろいろな意味で「同窓会」に改めて出会えた感じです。「同窓会が要る」と積極的に考えたこともなかった私が、「同窓会」を軸に脈々と繋がりを流れるものにじかに触れたのは、この編集を通してのことでした。『会報しらさぎ』をまとめる第8章に主に携わった私は、そのなかで卒業生たちの60年



藤田 加代 (生活科学科第7回生。文学コース、昭和34年3月卒業)

を、考えつつ生きた女性たちの軌跡の総体として何とか把握できたのかな、と思います。「婦人」がいつの間にか「女性」になり、「社会教育」が「生涯教育」になり、やがて「生涯学習」になる変化を浮かべながら、会報のどのページにも、同窓会

やっぱり「感動」のひびくやー!

寺内●『高知女子大学五十年史』の編集に携わり、今回は同



寺内アヤ子 (生活科学科第8回生。昭和35年3月卒業)

窓生の立場で記念誌の編集に関わりました。関わって良かつ

員のナマの発言と実践があり、試行錯誤があり、繋がるうとする働きかけがあつて感動しました。仕上りの自己評価は難しいのですが、同窓会員同士手に取っていただき、読み広げていただきたい「しらさぎ版」の心のこもったお便りです。

た!のひとこと。不謹慎と言われるかも知れないけれど、ホームメイドのお菓子や絶品のサバ寿司など、編集委員だからこそ賞味できた数々は実に幸せでした(笑)。

また、感動を誰よりも早く味わえた!という満足感もあります。先輩や後輩の力のこもった生き様が綴られた寄稿は珠玉です。がむしやらに、あるいはひた向きに、あるいはコツコツと道を切り拓いてこられた姿には感動させられました。校正をここまでやめよう、きょうはこまめで、と思っても止められなかった。そんな強さがありました。

橋村●高知女子大学は私の人生の中で大学生として4年、院生として2年の短い関わりです。しかし、高知県に住まい、栄養士として働くことはあらゆる場面で高知女子大学、あるいは「しらさぎ会」に支えられてきたと、今になってしみじみ感じています。

今回、しらさぎ会の皆様から多くの原稿が寄せられました。その時代その時代で状況は異なりますが母校への熱い誇りを胸に精いっぱい生きてこられたことが語られていました。もしかしたらこれらが私の生きるバックボーンになっていたのではないかと感じました。

大学を卒業し40年経過した私が先輩方の情熱に感動するだけでなく、私自身が後輩に感

ビックリして認識を改めた!

山重●十年前、女子大に入

学したときは、はっきり言えば本意だったんです。だから、或る意味、高知女子大に対して、生活改良普及としての仕事に携わる間もずっと距離を置いてきた、という印象が自分のなかにはあつたんです。女子大を卒業して良かった、というような感慨を持たないままの卒業でしたからね。

それが、とくに第3章の諸先輩方の寄稿を読んだとき、高知女子大に対する認識を改めない!と思つたくらい、諸先輩方の生き方にビックリしたんです。

動を与えることが出来るような生き方を考える機会になつたと思っています。

張つてこられたかゝとか、自分の背筋が伸びる感じでした。

なぜ記念誌を創ろうとしたか

松崎●その話と関連すると思

うけど、何で同窓会の記念誌を創るという発想が持ち上がったか、その辺りを少し整理しておきましょうか。

そもそも学問の世界で女性

はいわば後発部隊でしょ。だから、後発の女性が学問をする、という意味において、「女子大」という発想にはまず何の無理もなかった。

そして、女性専科の「生活」

や「被服」は学問として体系つ

新しい学部ができた経緯も初めて知りました。我々の世代より上の先輩方は普及員でも、高知女子大の名に恥じないよう



高知女子大永国寺キャンパス正門付近の西南角からの眺め

松崎●同窓会レベルで「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

藤田●同窓会って何!ということ

ことを考えた場合、どう動くかと

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

松崎●同窓会が「書き

留めておく」という作業はこれまで一度もしてこなかった。いったいどれほどの蓄積があるん

高知女子大の姿が大きく変わるようです

変革の時代の同窓会

高知女子大学同窓会しらさぎ会・会長
宅見 美佐子

21 年度の総会と支部長会を開催

去る 5 月 16 日 (土)、昨年に続き 2 回目の支部長会を開催の後、21 年度のしらさぎ会総会が開催され、本年度の事業計画、予算も承認され、新たな年の活動が始まりました。しらさぎ会活動に対する日ごろのご協力にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

22 年度よりの募集停止学科の表明と、共学化を打ち出した高知女子大学

今、母校高知女子大学は、大学改革に向けその取り組みが進められ、22 年度より、健康栄養学科は健康栄養学部昇格して、池キャンパスに移り、生活デザイン学科・環境理学科の学生募集が停止となり、生活科学部はやがて消滅することになります。

また、23 年度よりは男女共学となり、それに伴い私たちの慣れ親しんだ「高知女子大学」という大学名の変更も予想されます。

しらさぎ会の在るべき姿

60 年という歴史と伝統を築いてきた私たちの高知女子大学が、「知の拠点として」どう生き残っていくのか、社会の変革に対応できる大学とはどうあるべきか、いまだ全体像の見えない母校の将来に対する不安と寂しさを感じている同窓生もおいでのことと思います。

大学変革に伴う同窓会「しらさぎ会」のあるべき姿についても論議しなければならないのではと考えます。会員の皆様の率直なご意見をお願いします。

しらさぎ会事務局 e-mail:sirasagi@cc.kochi-wu.ac.jp
電話と fax (088) 875-7107 木・金の 10 時～ 16 時



松崎 淳子 (女専生活科第 1 回生。
昭和 24 年 3 月卒業)

卒業生が居て、皆着実に成果を収めているという印象でした。松崎 ● 県立だからまず高知県内の需要を満たす、という方

針だった。だから、どんな田舎の山の上の学校でも、岬の突端でも女子大の卒業生が働いていた、という感じだった。

池川 ● 開かれた時代に、自由を受け入れる気風が大学にあった。学生も自由な気持ちで、自由を謳歌していた。松崎 ● 教授会と学生も仲が良かった。藤田 ● だから、昭和 29 年の廃学阻止運動も可能だった、ともいえる。松崎 ● 昔の話になると、終わらずに延々と続きそうだけれど、昔の話だけではなく、百何十人の原稿が載って、何百枚も写真が載って、だから、編集後記は溢れた！というオチやもんね。じゃ、続きは記念誌で。

立派なホームページが開設されていますが、大学の先行きについては役員への問い合わせも多く、情報が行き渡っているとも思えません。そこで、最新情報と見られる 2009 年 6 月 17 日の段階で正式に大学のホームページに表明された内容を、以下に記しておきます。

高知女子大学は、平成 23 年 4 月から男女共学を実施します。昨今の大学を取り巻く社会環境の変化や、本県の大学への進学率が全国に比べて低い現状を考えると、公立大学として男子学生にも門戸を開放する必要があると考えます。

一方で、本学は、昭和 24 年に平和と文化の発展を支える女性の育成を掲げて誕生し、60 年の伝統を築いてきました。今日まで、数少ない「女性の高等教育拠点」として、多くの優れた人材を輩出し、社会の発展と男女共同参画社会の実現に貢献してきた歴史を持つ大学であり、この歴史と伝統を生かしつつ男子学生を受け入れ、大学としてさらに充実した教育を行うためには、十分な体制を整える必要があります。

ついては、その体制整備に一定の期間が必要であるため、男女共学については、平成 23 年 4 月から実施することとしました。

感じが、会報を読むとよく出てくる。母校が平穩無事なときは同窓会はどう在るべきか、と、会報では悩んでいるんですね。池川 ● 高知女子大学の開学の頃を、日本の夜明けを告げるというような表現で大学の五十年史にはまとめられている。同窓会誌にもそういった高尚な部分がある、と私は思います。寺内 ● 高尚かどうかの判断は分かれるところでしょうが、第 1 章を読んで、同窓会がなぜ生まれたのか理解できました。さらに、かつての教員仲間にもまたま機会があつて 1 章を読んでもらったところ、「同窓会のドラマにドキドキした。魔学

高知女子大で良かったあ

山重 ● 「原稿用紙一枚の青春」の章も、同窓生の寄稿文も、画一的な部分はあるかも知れないけれど、こんな人が居るんだ！という驚きの方が大きかったですね。川口 ● この頃の卒業生たちも、おしなべてホントによく頑張っているんです。今回の記念誌についても、大先輩の皆さん方の寄稿が多いなか、若い人たちの顔が見えにくいといったことが編集委員会ですり上がったあと、メールのや

り取りで多くの若い卒業生が、まさに今の活躍中の毎日を伝える原稿を送ってくれました。読むと、何十年も前に卒業した者にも青春が甦り、極めて具体的なエネルギーが与えられるといった印象でした。この場をお借りして、四百字に即応じてくださった皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。橋村 ● 栄養士をずっと続けてこられたのは周囲に女子大の仲間や励ましてくださる諸先輩方がおられたからだ、今

阻止運動のことも話にはよく聞いていたが、初めて中味が解った感じ」という感想をいただき、とにもかくにも誕生の頃がまとめられて良かった、という気がしています。



池川 順子 (女専英文科第 1 回生。
昭和 25 年 3 月卒業)

ごろ気づいています。即戦力にはなれなかったかも知れないけれど、考える力は大学時代に付けることができた筈だ、という気概を持つて (笑) やってきたんだと。川口 ● 若い卒業生たちも高知女子大で良かった！と嬉しいことを言って卒業していくんです。規模は小さいけれど、その小ささが良かったんだと。池川 ● 自分の場合、二十歳の輝きが、たまたまこの女子大だった、ということがある。松崎 ● 卒業生たちは地味で真面目、ということをよく言われているが、そもそも女子大が開学したのは敗戦直後ののだから、伝統として地味なのは無理のないこと。大学へ行かせてもらえるだけで有難い、といった時代だったのだから。橋村 ● 夏休みの始まる前、田舎に帰る私の服装が余りにも

粗末なもので、父が服代を送ってくれた、なんていう思い出があります。

寺内 ● それが特別なことではなかった。皆貧しかった。

松崎 ● 親に感謝しながら勉強する、というのが普通の時代でしたからね。学生は授業で熱

心にメモを取る。これも、この大学と比べてもその熱心さが際立っていたという印象を持っています。川口 ● 高知女子大の学生は真面目だから、他の大学の先生方も授業がやりやすい、という話もよく聞きます。

編集後記が溢れたわけ

寺内 ● 教育実習校にご挨拶に

伺うと、どの学校にも女子大の



橋村 夏世 (食物栄養学科第 4 回生。
昭和 46 年 3 月卒業)

総会の前の支部長会のドキュメント

昨年に続いて二度目となる本年度の支部長会には、関東支部、東海支部、京阪神支部、広島県支部、九州支部、香川県支部、愛媛県支部、徳島県支部、むろん地元の高知県支部と本部役員も参加し、22名で賑やかに意見交換ができました。予定の1時間50分は瞬く間に過ぎ、どんなに予めに議題をきちんと用意していても、時間は足りなくなるものだと、反省も少々。次回へ期する課題を残しました。(広報係)

開会前からアイデアの宝庫。参考になりませんか

年会費を払ってくれた人だけに「会報」を送ることにしてはどうか。でも少しゆるやかにして、数年に一度は同窓会員全員に送るようにして、同窓会を時々思い出ししてもらうようにするとか。

遠くからの乗り物の便の都合で、早めに見えられる支部長さんもうらつしやるので、開会予定の2時間半前から、茶話会の席だけは設けました。正式の議題ではないけれど、一部の役員の胸にしまっておくだけでは勿体ないような話題もいっぱいあり、まずご披露すると……。

支部会の出席者を増やすため「和服の会」と称して和服で出席すること自体を目的にしてみようとか、クルージングに挑戦する！とか、ふだん気軽に実行できない企画を考えてはどうか。

運営会費は課題がいっぱいだがずっと昔に会費を払って以来払ってないから心苦しいと思う人もいるかも。でも取り立てもないし忙しいし……、という人が案外多いのでは……。

年会費を払ってなかったけれど例えば、今年は払うというのなら、これまで払っていない未納が溜まっているけれど、それはチャラにするから、今後は協力を金を出してね、という考え方もあるのかも！

会報の制作経費を抑えるために手始めに会報を見ているか尋ねてみてはどうか。そしてもし今後とも会報が要るならその旨、切手を貼ってもらおう葉書で返信してもらうのもいいのでは？ 読まれていない分の部数を減らせることになるから制作経費が削減できる。

そして、支部長会が開会した。

代議員制の総会がスジ

最初に宅見会長からのご挨拶があった。「これまで高知県支部のご出席で総会を成り立たせてきたが、本年度、県支部も独立して支部総会を開くことになった。今後、総会をどうしていくかが、これだけ大規模な組織なのに総会の成立要件がこれまでではなかった。昨年、支部長会でご提案いただいた『代議員制』で総会を開くのがスジだと考える。積極的な意見を頂戴したいです」。

予めに、各支部長さんにお尋ねしていたアンケートでも「代議員制の方が総会の決議機関としての性格が明確になる」「各支部の

会則改正の検討と、22年度からの実施を目指す

支部強化担当の彼末富貴理事からの提案。「この席で率直なご意見をいただき、また今度の会報でも会員の皆さん全員に報告して、色々な意見を聞かせていただいたうえで成立を図り、平成22年から施行できたら、と考える。その際、代議員の決め方を会則で縛るのではなく、それぞれの支部で選出方法や任期は決めていた

だいたい。さらに、代議員が総会に出席できない場合にも委任状で対応するのではなく、代理が出席するなど、運営上の工夫もお願いしたい」。

会場からはこれといった異論はなく、新たな意見や質問が出された。「支部総会の席上で代議員を承認いただく運びとなるだろう」という意見や、「代議員制で



▲開会の挨拶に立つ宅見会長

▼和やかな中にも鋭い発言にはピリッと緊張感！の支部長会



から、高知県支部だけで役員構成を考えるのではなく、違う地域からの役員構成を考えてはどうか」とも質問された。会長は違う地域からの役員構成を考えるにはまず「予算をどう確保していくかが課題となるだろう」と答えた。これらの議論の結論としては彼末理事の方から、「代議員制が動きだしてから意見をいただきつつ話を進めていくのはどうか」と、いったんの結論が出された。

22年度からの代議員制なら、いつまでに選出？

議事の後半。「代議員はいつまでに選出したら良いのか」という質問に対しては、「22年度の総会で決定されたら、早速に代議員制で活動を始めたい。まだ決まっていないが、賛成の支部は支部会で代議員を決めておいていただければ、と思う。22年度の総会にはその方にきていただけたらどう

か」と、彼末理事が対応。代議員制についての締めくくりの意見が高知県支部から出された。「議案や議題があれば事前に支部の方へ送っていただきたい。代議員が他の支部員の意見も反映できるように資料に目を通していただきたい」という、支部活動の活発さが伝わるような内容だった。

役員選出の方法と、各支部の会費は、支部により様々

自由討議では、支部長は各学科ごとに順番制で回すとか、会への出席が負担にならないように交代で会に出席できる程度の役員定数を確保しているという支部の例。役を退く場合には後任の役員を見つけてからにする、とか、

副支部長が次の支部長、会計担当が次の副支部長と道筋を付けて

おき、役員の任期中の仕事を見れることで役員への抵抗感を少なくする秘訣なども披露された。

会費の例では、関東支部の2年に一度の総会の出席費が1万円。8千円が親睦会費で2千円が運営費。欠席者には案内状に同封の振込用紙で2千円の運営費のみ振り込んでいただく等が紹介された。

平成20年度の同窓会の活動からご報告

回答を急いでお出しするという事で、慌てました！



本来なら、同窓生の皆さんにアンケートを取らせていただくような内容ですが…。

2008年12月4日、学長室で「男女共学化について」の回答書をお渡しする宅見会長(左)。右端は吉川事務局長

「しらさぎ会は男女共学化をどう考えているか知らせて欲しい」旨の通知が、県当局から山根洋右学長に届いたそうで、平成20年11月18日、山根学長から宅見会長に早急に対応するようにお話を頂戴しました。

そこで、会長以下本部役員は慌てて高知県支部の宮田支部長をはじめ主に県内在住の同窓生に対して、叶う限りの方法で、急いで男女共学化への意見を寄せていただいた次第です。

平成20年12月4日、その回答を宅見会長が山根学長にお渡ししました。以下がその回答書です。こうして同窓生の皆さんにやっとうご覧いただける機会を得ました。

高知女子大学 学長 山根 洋右 様

高知女子大学同窓会しらさぎ会 会長 宅見 美佐子

高知女子大学の男女共学化について

ご要請のありました表記の件につき、ご報告申し上げます。

現状の中で、男女共学について同窓会として賛否を申し上げる状況にはありませんが、役員の意見をまとめてみましたので、参考にさせていただければ幸いです。

戦局厳しい昭和20年8月8日、銃後の医療陣整備の期待を抱いて開学された女子医専が1週間で終戦となり女子専門学校に転換された。その設立趣意書に「戦後の日本建設の基盤として女性の力に期待するもの大きく、女子教育の向上発展を図るべきこと」「高知の風土は教育的理想の地」とあり、「将来西日本唯一の女子大学に発展させたい」と明記されており、その趣意書どおり、昭和24年高知女子大学は始まったのです。

しかし、昭和29年突如として廃学案が浮上、その後、何度も大学の存在が問われるという厳しい状況にさらされたが、県下の心ある女性たちに支えられ、女性の学ぶ場は確保され、60年という高知女子大学の歴史が刻まれてきたという経過の中で、同窓生の母校を思う気持ちは、特に強いものがあるように思います。

いま又、女子大学の改革が論議され、**いまだ将来像が見えないままに、県の主導による改革案が進められておることに、歯がゆさを感じているのも事実です。**少子化という大きな波に飲み込まれ、押しつぶされてしまうのではとの不安をぬぐうことが出来ないのです。

新学部構想もまとめ、大学のあるべき姿、方向・方針が決まったとき、男女共学であり、新校名もおおのずと決まるのではと考えます。

60年の歴史と伝統に蓄えられたおおきな財産・人材を失うことのないよう、大学内において論議を深め、建設的な意見を出し合い、全国を、更には世界を視野に入れた魅力ある大学として発展可能な大学像を打ち立ててほしいと心から願っています。

※回答書には同時に詳しく皆からの意見も添えたが、誌面の都合で割愛。

4 ● 回目を迎えたしらさぎ会愛媛の集い 愛媛県支部

来年の幹事を超若手に引き継ぎ、また楽しみが…

今年のしらさぎ愛媛の集いは、6 月 28 日（日）の午後 1 時から、オーナーが高知出身の国際ホテル松山の吉長で開かれました。京



料理の店なのですが、特別に鰹のたたきも出してくれました。

高知からは、山根学長と彼末富貴さんにお越しいただき、総勢 26 名の楽しい集いとなりました。昭和 34 年の卒業生から、今年の春に卒業したばかりの方もいて、共に高知で過ごした 4 年間を懐かしみながらの、あっという間の 2 時間半でした。山根学長が、若き頃愛媛の地域医療に貢献されていたことも聞かせていただき、愛媛県とのご縁があったことを初めて知りました。

全員の近況報告は短い時間でしたが、それぞれの人生模様が伺え、聞きながら元気をいただきました。今年の名幹事は共に看護学科 44 年卒業の赤松信子さんと蜜石和子さんでした。

来年は平成 21 年健康栄養学科卒業の平野美由貴さんと、平成 17 年文化学部卒業の徳居未来さんに幹事をお願いし、来年を楽しみにお開きとなりました。（支部長 門田洋子）

徳島県支部

海外体験話に、花

徳島県支部総会と同窓会は、平成 20 年 11 月 15 日（土）にホテルクレメント



徳島で開催されました。まず始めに、参加者の皆様に 1 分間で近況報告をしていただきました。

総会では、新役員の紹介があり、その後、徳島大学の多田敏子先生と川西が研修で行ったフィリピンの大学や病院訪問についてお話ししました。現地の観光馬車にだまされそうになりながらも振り切って走った話などに笑いがおきました。皆さんの海外体験話にも花が咲いたようでした。

歓談は短い時間でしたが、おいしいごちそうをいただき、くつろいだ時間を持つことができました。最後に恒例の高知女子大学の学歌を皆さんで歌って、しらさぎ会本部への寄付が呼びかけられ、解散となりました。

今回は、平成 22 年 11 月 7 日か 14 日の土曜日です。恩師をお招きして少しでも多くの方に参加していただきたいと思います。お待ちしております。（支部長 川西千恵美）



JR 岡山駅前 090709

香川支部

支部活動の活性化についての提案

しらさぎ会香川支部は 2 年に一度の総会を実施、平成 19 年度総会の出席者は 23 名、いささか淋しかった。出席者の三分の一は役員という状態だった。総会直後の役員会で役員の増加を考え 8 名から 11 名に増員した。

総会の案内は案内状を個人に発送、それ以外は役員が電話で出席を依頼している。

それ以外の活性化としては、

① 役員の若返りを考えている。

若い人の出席が少ないので出席を増加させるために、恩師の推薦で若い人に就任を依頼、恩師の推薦だからやる気を出してくれる。現在平成 2 年卒山本菜穂子さんが活躍中、また先輩の推薦で否応なく引き受けてもらえる。具体的には昭和 60 年卒久本昌美さん。支部のお世話をとても熱心してくれている。

② 県内の都市別に小集会をもつ。

四県の中では一番小さい県であるが、中心地の高松になかなか集まらないので、地域で小集会を実施しようということになり、現在香川西部の昭和 35 年卒の西田益子さんが活躍されている。

③ 職歴を利用して後輩に声をかける。

教員出身の昭和 37 年卒石川昌子さん（旧会長）、栄養士の昭和 34 年卒野崎京子さん等、熱心に協力してくれている。

④ 同級生の多い年度から役員を選出する。

今年度の支部会長原田さん松本さんは同級生の強い協力で、その役職を十分にこなしている。（前支部長 川田昭子）

岡山県支部

岡山の皆さま、活動を再開させませんか？

30 年前、岡山を旅立ち高知で過ごした 4 年間は、私にとっては愛すべきまさに「青春」そのものでした。マンドリンクラブでの活動、下宿先での友との語らい、銭湯、図書館、日曜市、帯屋町……。今でも時々それらの情景が夢に出てきます。貧しい学生生活でしたが、自分なりの人生観を確立するための、たくさんの書物や講義や友人につつまれて、ゆとりのある時を過ごすことができたという点で、じつに豊かで、実りある 4 年間であったといえます。

そして今、卒業以来 30 年近くも、しらさぎ会の役員の方々には大変お世話になりながら、何の恩返しもできないまま、生活に追われる日々を過ごしております。

岡山県支部の活動が現在休止状態に近いとのことで、協力どころか、会への参加さえもできなかったことを申し訳なく思っているところです。今後は、微力ながら、支部が継続していける道を本部役員の皆さんをはじめ、岡山県在住の多くの卒業生の皆さんと一緒に考えていけたらと思うのです。岡山の皆さん、支部活動の意義を考えながら、知恵を出し合いましょう！（国文学科 22 回生 稲垣るり子）

しらさぎ会・各支部だより

● 本年の原稿依頼は、① 例年通り、支部のこの一年 ② 支部活動の活性化についての提案

以上のどちらかひとつ、または字数制限に叶うなら二つともについて書いて下さい、とお願いしました。なお、山口県支部は発足へ向けて本年も準備中、岡山県支部は動きが出始めています。

九州支部

秋に佐賀でお逢いしましょう！

前回は平成 19 年 12 月に福岡で同窓会を行ないましたが、今年は佐賀で初めて開催します。

佐賀県の会員は 33 名程ですが生活科学科卒の黒河さんを中心に準備します。10 月頃に詳しくご案内しますので皆様の参加をお待ちしております。

- 日時 平成 21 年 11 月 8 日（日）お昼を中心に
- 場所 佐賀市
- ゲスト①しらさぎ会本部より、男女共学になる（？）話等聞けそう②木場先生（鹿児島）、九州看護学会（佐賀医科大）中ですが、ご参加されます。③宇久先生（高知）や他の先生方にもご参加いただけると嬉しいです。

※ご意見や希望などありましたら黒河満智子さん 0952-22-2159 までどうぞ！

（九州支部長 宮川麗子）

広島県支部



海上をカーブする『内海大橋』



広島県重要文化財『弁天島塔婆』のある弁天島

ミニクルーズ♪ウキウキ気分のおしゃれな会

昨年 10 月 13 日、12 回目の広島支部会はミニクルーズを楽しみました。参加者は 12 名。福山駅に集合した後、万葉の昔から潮待ちの港として栄えた鞆の街へ。山の中腹にある茶房ではご主人から、「崖の上のポニョ」に登場する施設などのモデルとなったところを説明していただき、映画が一層身近になりました。そして、出港。

弁天島をぐるっと回って南へ。何度か訪れたことのある鞆の町や沼隈半島も、海上から見るとまるで初めての地。知らないところを旅しているようなウキウキ気分でした。半島の南端のあぶと観音を海から拝見することが出来て、感激。カーブして架かっている内海大橋をくぐり、停泊しているタンカーの傍へ。その巨大さにびっくり！新しい発見や驚きの一日でした。

県東部の加納さんと小畑さんにお世話いただき、「おしゃれ」な支部会となりました。

今回は、県北の三次市辺りでの開催を予定しています。県外の方もどうぞご参加下さい。

（広島県支部長 田中めぐみ）

高知県支部

恒例の支部総会は、6 月 27 日（土）13 時から 15 時 30 分、オリエントホテルで開催。会員のお越しを首をながくして待っていたおかげで、55 名のご出席を戴き盛会。

従前は、本部と同日開催でしたが、昨年から県外支部長を招集しての会も同じ日で、時間的にもっとゆとりのある内容のある支部総会にしたいと、単独開催に変更。総会議事、役員改選の後、講演に移る前、飲み物とケーキで和やかなくつろぎのひと時も持てました。

20 年度もささやかな活動ですが、地域のネットワーク作りで、新しい成果が見られました。土佐市において 7 月にしらさぎ会高知県支部の世話人大森陽子さんの企画による、会員と市民を対象に山根学長から「生命輝いて生きるために」と題するご講演をいただきました。土佐市長も熱心に聴講され、これが契機となり、高知女子大と土佐市で「健康と人間尊厳を守るまちづくり」の包括協定が結ばれた嬉しいニュースがありました。

安芸市では 8 月、同じく地区世話人西岡美智子さんの企画で、会員から要望の多いテーマ、医療制度、介護保険制度の知識を少し整理して「住み慣れた地域で安心して暮らすために」と第一線で活躍の近森病院統括看護部長梶原和歌さん（県支部副支部長）の講演がありました。中身の濃い時宜を得た講演で、大好評でした。

高知市地区では世話人川添史子さん、ベテラン管理栄養士の高橋典子さんなど多くの会員の協力を得て、10 月に「聞いて、見て、食べて」楽しく学ぶ企画で大学祭に初めて参加しました。

松崎淳子名誉教授の「後輩たちに送りたい食の奨め」の講演と、調理実習と試食、食と健康に関する具体的な食品、料理の展示、貧血、メタボ、糖尿病などの食事相談、骨密度測定など行ない、講演の対象である学生より一般県民の参加が多く、たいへんに好評で、わかりやすい地域貢献をも果たせました。

さて、支部総会ではたいへんにお忙しい山根学長にお願いして「高知女子大学改革に関する報告」と「健康長寿への途は」と題するご講演をいただきました。

母校は「女子高等教育拠点」として歩んだ輝かしい歴史があり、今年は 60 周年を迎えます。しかしながら、大学をとりまく社会の状況も変化して来ました。平成 16 年 10 月に県立大学検討委員会からの提言に「共学化の方向が妥当」と出されていましたが、2011 年 4 月実施に決着したとの報道に、複雑な思いをされている会員もいました。

学長はわかりやすく説明され、大学の更なる機能の充実などにも触れられていました。昭和 29 年の廃学問題が起こったとき学生だった会員からは当時を振り返り、現状へのメス、辛口の切々とした思いが述べられていました。会員でもある池川順子元学長のご発言もあり、流石だと感銘を受けました。

最後になりましたが、役員の改選もあり、若干交代しました。新しく支部長には坂野志津さん（英文科 39 年卒、5 回生）が就任。支部会員のみなさまご支援、ご協力よろしく願います。

支部役員構成は年齢、出身学科ともバランスよくできました。4 年間支部運営に携わりましたが、ご協力に心から感謝申し上げます。

（しらさぎ会高知県支部 前支部長 宮田福）

東海支部

固定した役職は作らず、毎年決まって 11 月の第 2 土曜日に「京たち花」で会

東海支部は、愛知県を中心に岐阜県・三重県・静岡県・新潟県まで 200 名以上の会員がいます。固定した支部の組織、支部長という役職はありませんが、毎年 11 月の第 2 土曜日に支部の同窓会を開いています。今年も 11 月 14 日（土）、ロイヤルパークイン名古屋「京たち花」で行います。名古屋駅から徒歩で 3 分の便利の良い所です。

参加しますと、学科、学年を越えて何十年も前の学生の気分に戻り、和気藹々と話が弾みます。恩師のこと、趣味、健康、家庭のこと、お互いの子どもさんの結婚話まで、話題も様々で、ちょっと刺激を受け、心豊かになります。楽しく時間が過ぎていきます。

今年は 5 月の支部長会に幹事の一人・玉木貴知子さんに出席いただいたので、最近の大学の動きやら代議員制の話も話題にしたいと考えています。支部の皆さん、お誘い合わせの上ぜひご参加ください。（今年度幹事 田中智恵子 国文 10 回）

京阪神支部

第一期卒業生の生き方に将来の希望を感じる総会

京阪神支部は、平成 20 年 11 月 22 日に、2 年に一度の支部総会を開催しました。私たち主催者側の準備不足もあり、24 名という少人数になってしまいました。しかし、それ故に全員が自己紹介で近況を語り合うゆとりがあり、およそ四十歳もの年齢差が参加者にあるとは思えないほど、アットホームな雰囲気になりました。

高知からわざわざご参加いただいた元英文学科の宇久先生からは、変化しつつある女子大への期待や不安などの話をきかせていただき、会員はそれぞれに母校に対する愛着の思いを改めて持ったようでした。

昭和 24 年第一期卒業生の、とても魅力的なお二人に接し、あこがれやこれからの生き方に希望的なものを感じさせていただくことができました。

全くつながりのなかった人とおしの会話もはずみ、2 年後の再会を楽しみに思いながら別れました。（支部長 松浦順子）

関東支部

若い世代から、支部運営の活性化を望む提案！

同窓会の役割をどのように捉えるのか、例えば、大学の教育研究の充実発展のために後方支援する、また、同窓のよしみを結び合う、ということが考えられる。

母校から遠く離れた地域に暮らす関東支部の私どもは、学部・学科も異なり卒業年度も幅がでけると共通の同窓会への『思い』を一つに束ねていくことが、とすると困難な状況にある。

そのような状況にあって、支部運営が活性化できるような事業を考えていくが必要ではないか、と若い世代から意見が出た。通常の総会・懇親会だけではなく、広く国内外で活躍されている卒業生を講師にお願いし、講演会を午前中に設定し、午後に総会・懇親会を開催する、などの案が出されている。今後事業計画できるか検討していくことになっている。

また、若い世代を取り込む工夫がいるのではないかと、役員交代のあり方など検討していく時期にきている、などの意見が出され、現役員会は意見交換を活発に行なっている。（支部長 原礼子）

平成 21 年度しらさぎ会総会報告

5 月 16 日（土）
14 時 30 分～16 時 00 分
永国寺キャンパスで

平成 20 年度活動報告

議事のなかの報告事項のひとつめは 20 年度の活動報告から。この 8 月に出版記念会を控えた同窓会の記念誌の発行に向けての取り組み状況を企画担当から説明した。編集委員会は合計 7 回開き、池川順子特別顧問をお迎えして編集に厚みが加わった話などが報告された。

さらに、例年通り『会報しらさぎ』も発行されたが、やはり

式次第

- 開会の言葉
- 名誉会長挨拶
- しらさぎ会会長挨拶
- 議長選出
- 議長報告
- 報告事項
- （1）報告事項
- 平成 20 年度活動報告
- 平成 20 年度会計報告
- 平成 20 年度会計監査報告
- （2）審議事項
- 平成 21 年度活動計画案
- 平成 21 年度予算案
- 会則の改正
- 役員改選
- その他
- 閉会の言葉

記念誌への取り組みと関連し、同窓生の情報をできるだけ広く公平に寄せていただけるよう手を尽くすという意味で、発行時期も内容も主に記念誌へ照準を合わせて行なった、という報告だった。

「支部強化」の動きがかつての諸先輩方の活動を彷彿とさせるように、少しずつその裾野が広がって来ている話には、勇気を与えられる同窓生も多かったの

ではないだろうか。第 1 回目の支部長会の報告、さらに各支部の総会報告もなされた。下の表 1 と 2 をご参照ください。

奨学金貸与事業では在学生一人に 50 万円を貸与した報告、その他、学長諮問会議と JICA 事業プロジェクト修了式と歓送会に宅見会長、川口副会長が出席。また宅見会長出席のもと、卒業式、入学式では卒業生 260 人に小風呂敷を、新入生 236 人にタイタック校章を贈呈した報告がそれぞれなされた。役員会は 8 回開催。また、直前に開かれた支部長会の報告では支部担当理事から、「各支部の活動報告のあと、いかに若い人たちへの支部会参加を呼びかけるのか、また代議員制への移行に向けて代議員の人数のことなど、会則について

の提案を行ない諮っていただいた」ことなど。

平成 21 年度活動計画

これは、続く本年度の活動計画案とも関連し、さらには会則改正について諮っていたかどうかという点で、条文を例に挙げての詳しい説明（後述します）を会長が行なった。別紙（同封）表 3 に会則改正案について掲載しているの、同窓生の皆さん、どうか目を通してください。そして、お気づきのことがあれば、お近くの役員なり、事務局への



新年度役員の自己紹介「乞うご協力！」

しらすさぎ会（本部）新役員

平成 21・22 年度 しらすさぎ会役員	
役 割	氏名と所属・卒業学科
名誉会長	山根 洋右（学長）
顧 問	渡邊 浩幸（生活科学部）
	五百蔵 高浩（文化学部）
会 長	宅見 美佐子（生活）
副会長	林 昭子（看護）
	川口 順子（家政）
書 記	彼末 富貴（食栄）③
	北岡 宏美（家政）⑦
会 計	岡田 湊子（看護）⑥
	坂本 ひとみ（国文）
奨学金担当	川村 真美（食栄）②
広 報	坂本 美和（国文）
	塩見 安代（社福）
	上村 絵理菜（社福）
支部強化	堀内 和美（理学）
	西谷 抄希子（国文）①
企 画	山重 慶（生活）⑤
	橋村 夏世（食栄）④
会計監査	西岡 道子（食栄）



事務局の山川真弓さんも皆さまにご挨拶



顧問の渡邊浩幸先生もご出席くださった

会則の改正

いちばん大きな改正の提案は（支部の設置）についての第 16 条。電話、メールなり、ぜひ反応をください。

その他、60 年記念誌についての活動計画では 8 月の出版記念会の演し物として同窓生や在学生によるマンドリン演奏やコーラスの企画のこと、また発行予定が 4 月から 8 月に延びたのは、寄稿者の原稿の上がり具合が残念ながら遅れた方がおられたことなどが主な原因と説明された。

また、会報の発行、名簿の整理、支部強化、学生への支援（奨学金・寮）などの活動は、継続するとの方針が承認された。

さよなら調理実習室

健康栄養学科の移転に伴い、調理実習室に別れを惜しむ催しが 10 月 31 日に企画されています。松崎淳子名誉教授を中心に「高知の郷土食を作って、一緒に食べましょう」で、サバ寿司、こけら寿司、巻き寿司、田舎寿司、その他もたくさん、チラシをご覧ください。

肅々と総会のように。議長は北村伸さん（食物栄養 4 回）



会員数

のお知らせです。

人事消息

敬称略

●退職（平成 20・8・31）生活科学部講師 高橋 孝子。（平成 20・9・30）生活科学部准教授 佐藤之紀、文化学部准教授 イアン・アンズマンガー、看護学部教授 齋藤 信也。（平成 21・3・31）生活科学部講師 松井 慶子、同助手 佐野 尚美、文化学部講師 マイケル・ペインター、看護学部講師 佐東 美緒、同助教 池田 貴子、水津 朋子、中河 亜希、社会福祉学部教授 川崎 育郎、同准教授 吉野 由美子、玉里 恵美子。

●採用（平成 20・10・1）生活科学部教授 村上 尚、同准教授 清水 扶美。（平成 21・4・1）文化学部准教授 ジョン・エスボジート、看護学部教授 池田 光徳、同教授 畦地 博子、同助教 大坂 京子、坂本章子、下元 理恵、富川 順子、社会福祉学部教授 林 美朗、杉原 俊二、同准教授 後藤 由美子、同講師 上白木 悦子。

連絡先

●誌面のあちこちに、「ご協力を」とか「反応を待つ」とか書いていますので、事務局の連絡先を再び書いておきます。
☎とファックス 088 (875) 7107
事務局員の勤務は木・金 10 時～16 時です。
しらさぎ会のホームページは、
kochi-wu.ac.jp/~sirasagi/
しらさぎ会の e-mail は、
sirasagi@cc.kochi-wu.ac.jp

巴里で40年ぶりの同窓会

両手に持った熱いお茶のマグカップから伝わる心地良いぬくもりを楽しみながら、あの時の楽しかった思い出の写真を眺めています。

昨年の5月28、29、30日の3日間、私たち7名は花のパリでミニクラス会を持ちました。卒業式後、40年をへて、パリで再会する友人もいて、奇跡のような、信じられないような出会いをしました。これというのもフランス在住35年(このうちパリ15年)の亀井さんがいらっしやったからできたことでした。

亀井さんの発案、企画、実行で、日本からの先発隊、5名は南仏も楽しめましたが、私だけはパリで合流となり、この時点でミニクラス会がスタートしました。私だけが夫持参(笑)でしたけれど、黒一点の彼を丁重に扱っていただき感謝でした。パリ観光の主たるところを堪能し、夜は同じホテルに皆で泊まり、ちょっとした修学旅行気分も味わいました。お口も達者に動きましたが、足も良く動きました。フランスの芸術、文化に圧倒されっ放しの3日間でしたが、こんなまたとない、幸せな機会を作って下さった亀井さんに私たち6名は口を揃えて感謝、感謝のミニクラス会となりました。

次はポートランドでお会いしようというお約束で、お別れしました。写真はエッフェル塔をバックにした私たちです。確かにパリです、という貴重な写真です。お天気が悪かったので、良くとれていませんが、60ン歳とは思えない若さではないでしょうか! 家政学部生活科学科13回生 ストラウド啓子(ポートランド、オレゴン州在)



▲左から平岡順子、伊藤章子、ストラウド啓子、加藤雅子、近藤修子、樋田公子、亀井昭子の皆さん

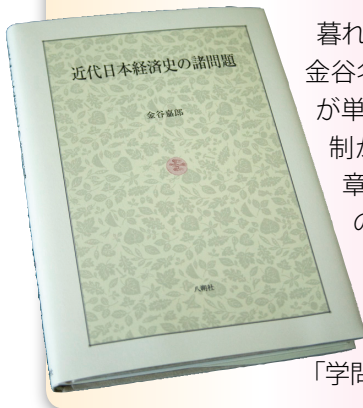
しらさぎ会の伝言板 皆さんの声の行き交う情報交差点

リーダー拡大版

日本の皆さん、暑い夏をいかがお過ごしでしょうか。お伺い致します。さて、昨年、パリでミニ同窓会をしましたので、そのことを会報に載せていただきたいとお願ひ致しましたが、間に合いませんでした。会報を出した後でした。今年の会報に間に合うでしょうか。記事が古くなりますが、構わなかったら掲載をよろしく願ひします。(嬉しいことにこういってお便りを遥々いただきました。いいですねえ、羨ましいですねえ)というわけで、喜んで掲載させていただきます。広報係

『近代日本経済史の諸問題』

金谷嘉郎(かなたに よしお)名誉教授が出版



暮れも押し詰まった2008年12月25日付で、金谷名誉教授の近代日本経済史に関する論文が単行本に纏められました。明治前期の地主制がどのように発展したかを分析した第1章から、補論「幕末期の農村雇傭労働者層の動向」まで、160頁に亘る詳細な分析。とくに、明治大正昭和初期の大阪市と高知県の賃金格差の研究は、現代日本の格差社会を彷彿とさせる数字が並び、「学問」を興味深く楽しめそうです。知る楽!

(広報 坂本美和 塩見安代 上村絵理彦)

とはいえ、年に一度の、唯一とも言える皆さんとの交流の手段を、そう簡単には手放せないのです。だから皆さん、会報をぜひ読んでください。私たちも、心をこめて色々案を練っていますから! では、ごきげんよう。

編集後記 ▼昨年に引き続き、60年記念誌のプロジェクトの関係で発行の時期が早まっています。そのことに気づいてくださっていますか。本年の支部長会で会報の制作経費を抑える話題が出た記事を読んできたさつたでしょうか。会報を要るかどうか尋ねて、無駄な部数を減らしてはどうかというご提案でした。地球規模で考えても大事だと、広報委員会でも話し合っています。読まれないものは無駄になるだけで、一部単価の問題より、全体で経費を抑えることを優先して考えるべきだと、当然思います。

受賞

2008年11月19日(水)に第13回高知県文化環境功労者表彰が行われました。高知女子大学名誉教授の市村金次郎先生が、高知県文化環境功労者表彰【国際交流】を受賞されました。

ご冥福をお祈り致します。

上記の嬉しいご報告と同時掲載になってしまい誠に残念ですが、思いもかけず市村金次郎先生におかれましては、平成21年7月8日午後2時25分、膵臓がんのため市内の病院で死去されました(80歳)。謹んでお知らせし、お悔やみ申し上げます。

また、前田忠夫先生は平成21年1月9日に、松浦千代子先生は1月13日に、児平文雄先生におかれましては5月16日に、死去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。合掌。